

巻 頭 言

大学院歯学研究科長 宮崎 隆

昭和大学歯学部は昭和52年に設立されましたが、学部の完成年度である昭和58年に大学院歯学研究科の設置が認可されました。以来、本歯学研究科は医系総合大学である昭和大学の一員として、全身の健康との関わりをもとに歯学に関する先端的かつ独創的な研究を押し進めてきました。全国の大学院歯学研究科のなかでも、最も活発な研究活動をしている研究科のひとつであり、多くの大学院生が学び社会に育っていきました。

歯科医療が発展するためには、それを支える優れた歯学研究が必要です。我が国が世界に類の無い超高齢社会に突入しつつあるなかで、摂食、嚥下、呼吸、発音などの口腔機能の重要性が再認識され、加齢や疾患による顎口腔機能の低下が国民の生命の維持や生活の質(QOL)を大きく左右することが明らかにされています。本歯学研究科は平成17年度から21年度まで、文部科学省のハイテクリサーチセンターに選定され、「顎口腔機能障害の発症機序究明とその機能回復に関する先進的研究」について、診断・治療の確立からリハビリテーション歯学の基盤構築までの体系的な研究に取り組んできました。この成果が、歯科病院における口腔リハビリテーション科での専門診療や、医学部附属病院の病棟における口腔ケアの診療に還元され、患者の健康回復に貢献しています。そして研究は引き続き、関連の部署で進められています。

平成20年度からは昭和大学歯学部口腔癌包括研究センターが、文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の研究拠点として採択され、「分子的理解に基づいた口腔癌の先端的研究」プロジェクトがスタートしました。本研究プロジェクトは、医系総合大学として口腔癌を撲滅するために、総合的な全学的組織として研究を展開し、癌発症のメカニズムの解明から患者の QOL の向上を目指した包括的リハビリテーションの研究までを網羅するもので、昨年10月に、Maruzen Planet 社から「The New Frontiers in Research for Oral Cancer」を出版しました。

平成22年度からは、同じく文部科学省の私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「デンタルイノベーションを目指した集学的研究拠点形成－アンチエイジングに貢献する新たな付加価値の創生－」プロジェクトがスタートしました。本歯学研究科が中核となり、口腔からのアンチエイジングに関わる研究を自立的、連続的に推進することによって、超高齢社会における人々の生活を豊かにするために、歯科がひとりの生活機能全体に関わるデンタルイノベーションの実現を目指すものです。

さらに、平成24年度からは、新規に「次世代型顎口腔再生医療の研究開発拠点形成（顎口腔組織再生医学研究センター）」がスタートしました。山中教授のノーベル賞受賞で、再生医療への期待が高まっていますが、歯科の重要性をアピールするために、文字通り、歯学部・歯学研究科の総力をあげて取り組むべきプロジェクトです。皆で力を合わせて、我が国の国民の長寿健康に貢献できるように研究活動をさらに充実させていきましょう。

現在、本歯学部ならびに本歯学研究科には、世界のトップレベルの歯学系研究施設と比べても遜色のない、最新かつ最先端の研究機器が導入されています。研究指導する教員も我が国の歯学研究分野ではトップレベルを誇っています。ぜひとも各大学院生におかれましては、このシラバスを活用して、歯学研究の共通の基礎的手法を習得するとともに、各分野で専門性の高い研究に従事して成果をあげ、世界に広く発信することを期待しています。